

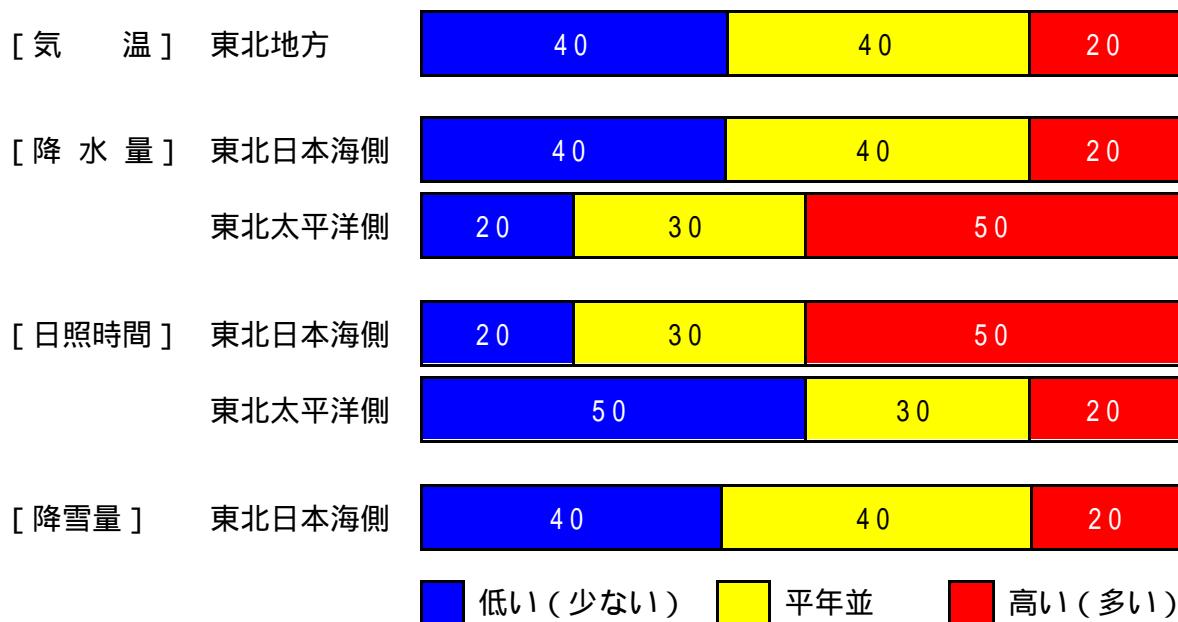
東北地方 1か月予報の解説（予報期間：1月6日～2月5日）

平成13年1月5日 仙台管区気象台

0. お知らせ

1か月予報は、本日（1月5日）発表する予報から、1971～2000年の30年平均値に対して予報します。また、各階級の幅は、1971～2000年の30年間の出現率が各階級で等確率（33%）になるよう定められています。

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「高い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

2週目は冬型の気圧配置が続く見込みですが、その他の期間は、冬型の気圧配置は長続きせず、気圧の谷が周期的に通過するでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数（向こう4週間）：東北日本海側約5日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 8日頃と10日頃に気圧の谷が通り、天気がくずれるでしょう。
(1月6日～1月12日) 気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪の所が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れる日がある見込みです。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

2週目…………… 冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低い見込みです。

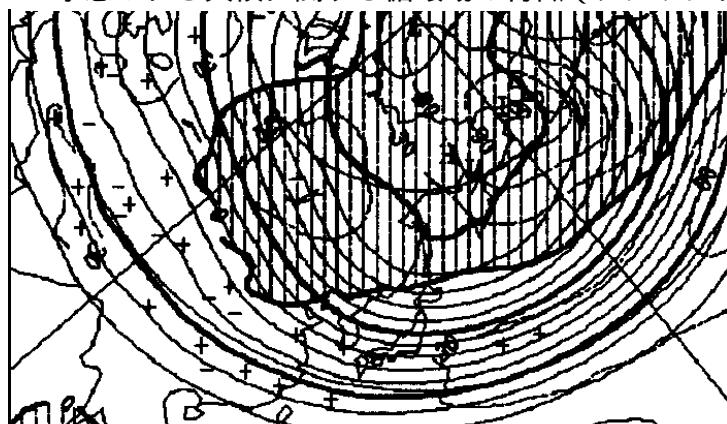
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

3～4週目…………… 冬型の気圧配置は長続きせず、気圧の谷が周期的に通過するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないのでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

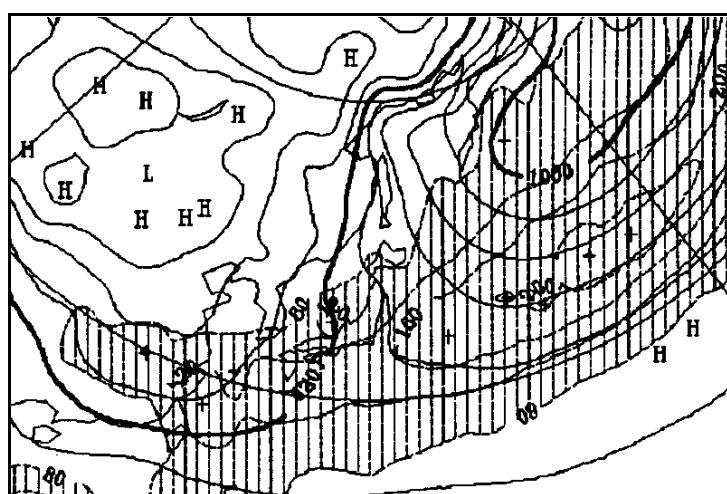


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、負偏差域はバイカル湖付近とベーリング海。日本付近は弱い正偏差域が広がる。日本付近の偏西風は東西流が卓越しており、周期変化が基調だが、時々は寒気の影響を受ける見込み。

週別（図略）では、2週目は日本付近負偏差で寒気が入りやすい。1週目と3～4週目は日本付近弱い正偏差。

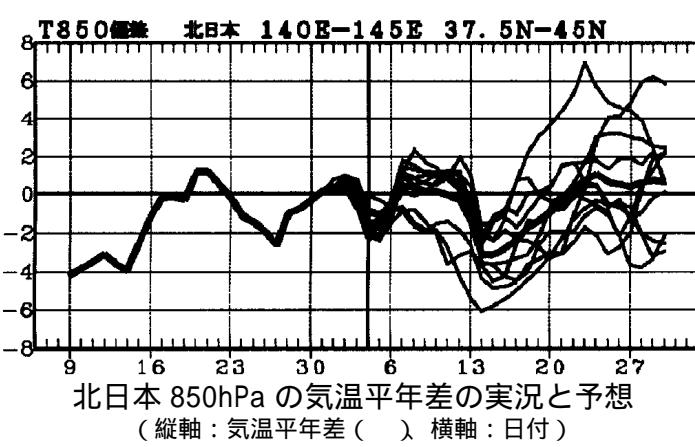


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 每、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、西日本に張り出す。一方、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっているが弱い。まとまった降水域は日本の東海上だが、日本付近広く降水域に覆われる。

週別（図略）では、2週目に冬型の気圧配置がはっきりするが、1週目と3～4週目は冬型の気圧配置は弱く、周期的に気圧の谷が通過する見込み。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付）

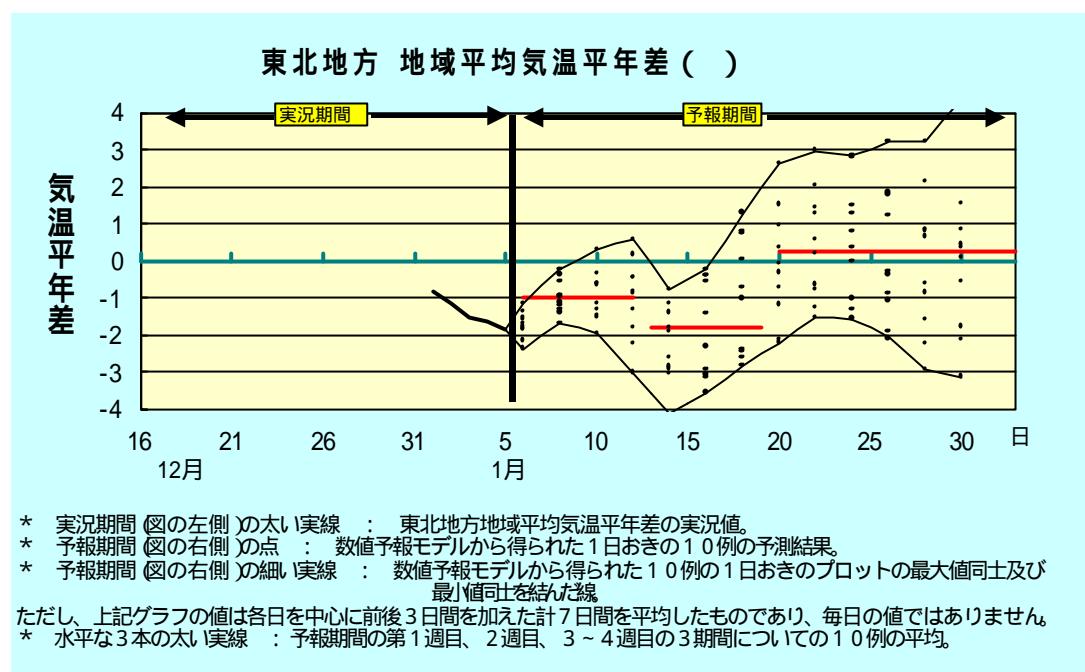
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目は平年並、2週目以降は平年より低く、3週目以降はほぼ平年並。多くのメンバーが概ね同じような傾向を示しており信頼度は大きい。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

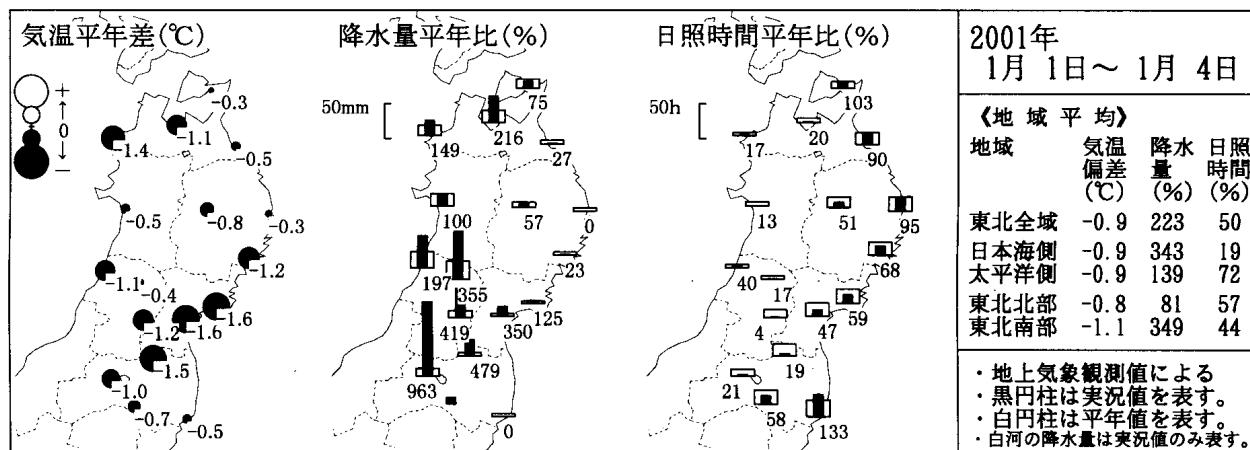
週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「低い」、3~4週目「平年並」を予測している。アンサンブルメンバーのはらつきは3週目以降大きくなる。
注)2001年1月1日から平年値が変更になりましたので、下図の実況期間の12月については表示していません。



4. 最近(1月1日~1月4日)の天候の経過

この期間、冬型の気圧配置が続いた。3~4日は上空に強い寒気が入り、東北南部を中心に大雪となつた。このため山形新幹線が終日運休するなど交通機関が混乱した。日降雪量は、若松65cm(3日、1月として第2位)、福島30cm(4日、1月として第1位)、山形22cm(3日)、仙台10cm(3日)など、最深積雪は、若松97cm(4日、1月として第3位)、新庄84cm(3日)、山形41cm(4日)、福島28cm(3日)、仙台12cm(4日)などを観測した。

平均気温は、東北地方で平年差-0.9と平年を下回った。降水量は、東北南部で平年比349%と平年を大きく上回り、東北北部で平年比81%と平年を下回った。日照時間は東北日本海側で平年比19%、東北太平洋側で平年比72%と平年を下回った。



最近の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)